

2013年12月25日
東急建設株式会社

～もりへとつながるコンパクトなまちへ～ 横浜市栄区上郷町猿田地区における提案

東急建設株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：飯塚恒生）は、2012年1月、栄区上郷猿田地区において、「都市計画提案事前相談書」を提出し、同年3月に横浜市から「助言書」を受理し、計画案の検討を行ってまいりましたが、このたび、同提案の本申請を行う運びとなりました。

提案区域は、JR根岸線港南台駅から南に1kmの徒歩圏にあり、都市計画道路環状3号線と4号線を結ぶ都市計画道路舞岡上郷線沿いの利便性の高い地区であり、4号線沿いに広がる栄区東上郷町、桂台、庄戸、野七里などの郊外型住宅地と港南台駅の徒歩圏とをつなぐ結節点でもあります。また、提案区域の南東側は瀬上市民の森に隣接し、自然的環境が良好な状態で現存し、円海山周辺の自然環境への玄関口として、一年を通じて来訪者の絶えない地区です。

この地には、現存する緑を現状のままで、すべてを保全して欲しいというご意見が多く寄せられる一方で、先祖代々農業を営み農地や樹林地を守ってきた数多くの地権者の皆さまもいらっしゃいます。この地の現在の環境は、地権者の皆様が、市の緑地保全施策に協力しながらも、せめて一部でも宅地化して子孫に残したいとの思いから個々の土地利用を行わなかつたために残されたものですから、これらの方々の積年の思いも決して軽いものではありません。それは、昨年当社の事前相談書提出後に「地権者の会」が結成され、「持続可能な緑の保全と、地域活性化に資する開発のバランスのとれたまちづくりの早期実現を求める。」として、全地権者と支援者による市長あての陳情がなされ、今般、都市計画提案に先立つ説明会におきましても当社に対し強く要望され、再度支援者を募っているということからもその切実さがうかがわれます。

当社は、これら地権者の思いと多数の皆さまのご意見を踏まえ、今回の提案で、将来の社会状況を見据え、次世代に自信をもって伝えることのできる都市環境と自然的環境とのバランスのとれた姿の実現を図り、瀬上の森へとつながるまとまった緑を、緑の拠点とのつながりのもりとして保全・保存し、舞岡上郷線を拡幅本整備し、駅を中心とした低炭素型のコンパクトなまちづくりの一端を担うとともに、郊外型住宅地からの住み替え先となり得るようなまちづくりを目指します。

昨年1月の計画との大きな違いは、舞岡上郷線を挟んだ両サイドのエリアの位置づけを明確にしたことです。

舞岡上郷線の南東サイドについては、自然環境保全エリアとし、ビオトープ化が期待できる雨水調整池や多自然型水路を整備し、市民団体などの活動を支援できる施設や場所を配置するとともに、現存する良好な樹林地を中心とした緑地の保全と、豊かな自然に親しみ、緊急時には避難場所ともなる公園を都市計画に定め自然環境の利用を高める整備・管理とします。

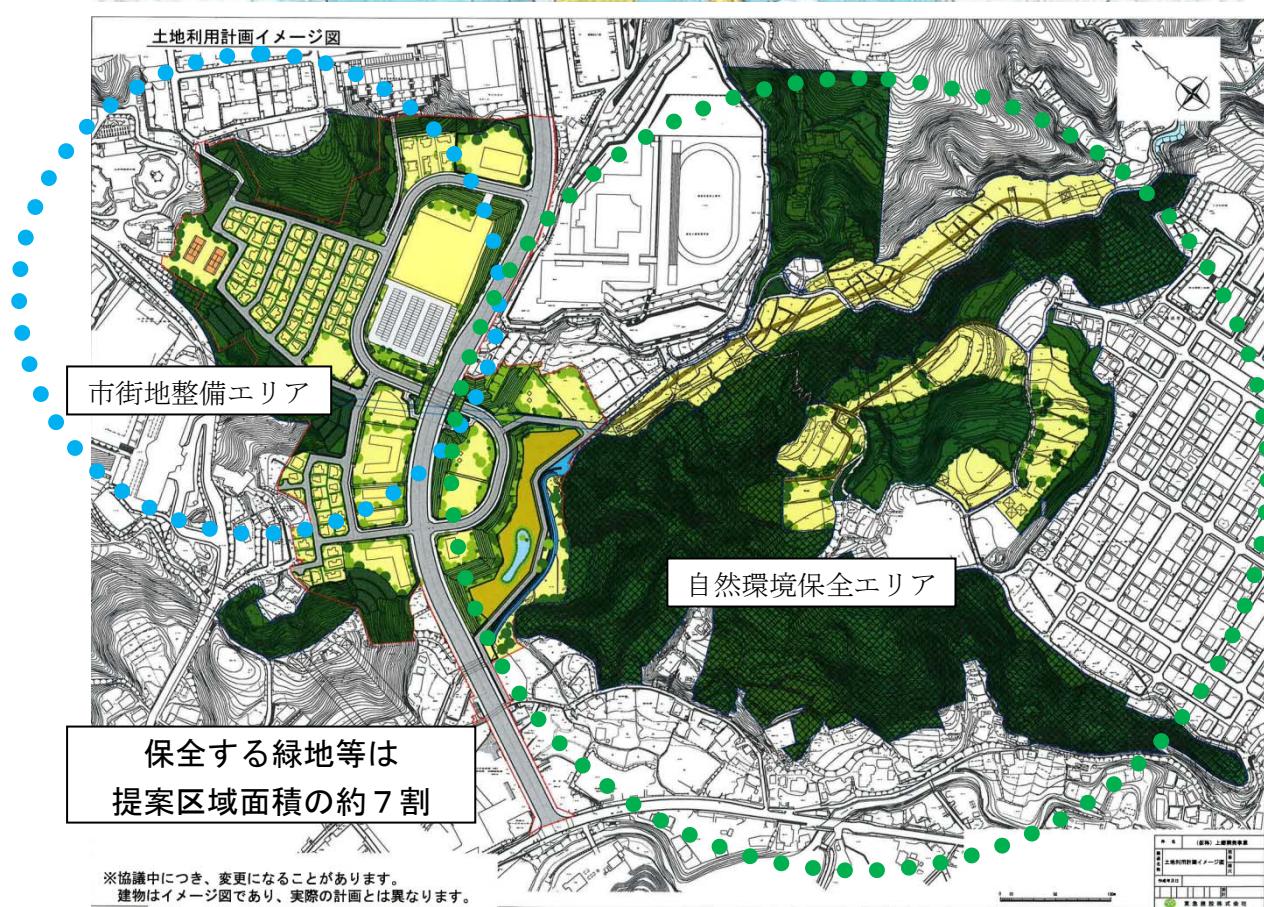
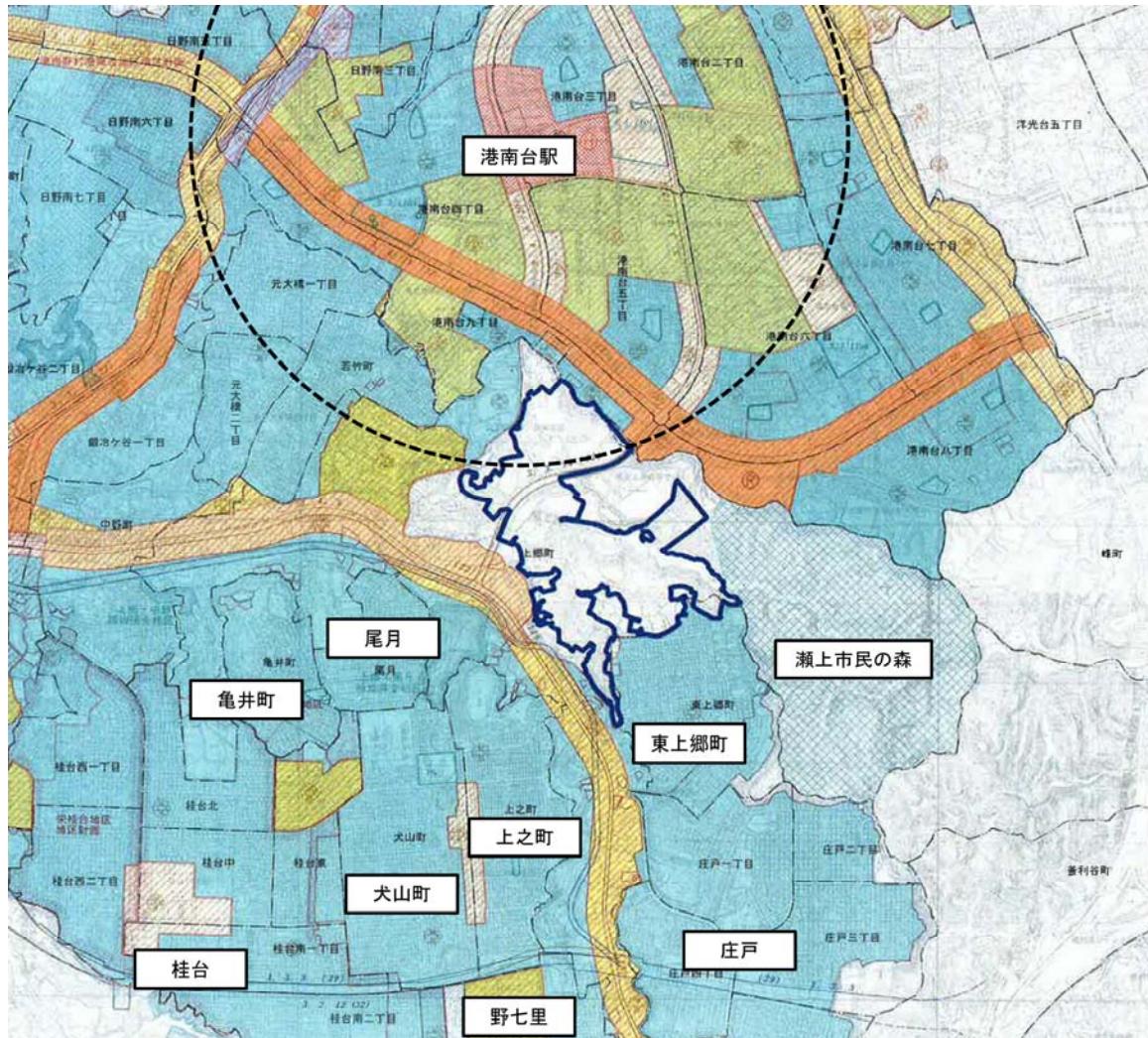
舞岡上郷線の北西サイドについては、市街地整備エリアとし、沿道には周辺の郊外型住宅地に必要とされる商業施設や医療・福祉サービス施設を配置し、その奥に緑に囲まれた良好な住環境を提供します。これらの整備では、敷地内の緑化を図るとともに建物建設には、環境に最大限配慮した最新の技術を導入いたします。また、これらのコミュニティ核となる施設は、周辺地域の持続可能性を向上し、災害時には災害支援等の拠点となるような機能・運営といたします。

以上のことおり、当社は、この地を「もりへつながるコンパクトなまち」として、提案区域の南側の良好な樹林地を中心に特別緑地保全地区を、谷戸と丘陵部の農地を中心に都市施設の公園を指定し、北側の未利用地を中心に、市街化区域に編入した上で土地利用の転換を図り、良好で持続可能な市街地環境を計画的に形成し、まちなみの景観や生物生息環境への影響を最小限とすることを提案します。

【本件に関する問合せ先】

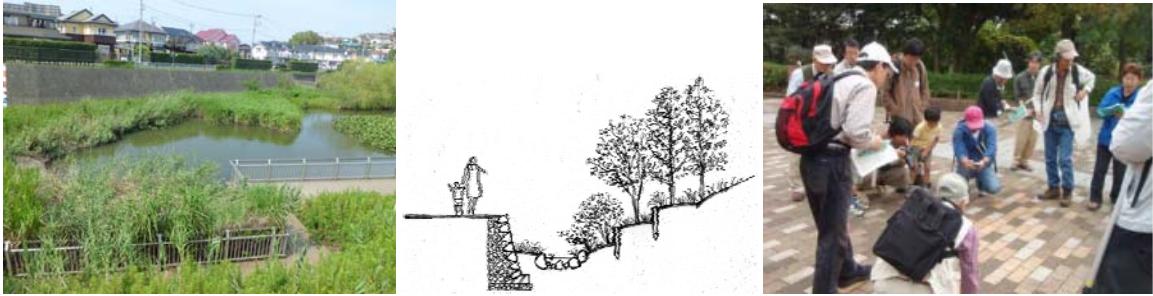
東急建設株式会社 管理本部 経営企画部 広報担当 小川

TEL 03-5466-5016 FAX 03-5466-5069 E-mail:webmaster@tokyu-cnst.co.jp





- 自然環境保全エリア
- 森の利用を高める整備のイメージ（ビオトープ、多自然型水路、集いの場）



自然環境資源保全エリアから円海山周辺緑地とのつながりのイメージ